

(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

『研究課題:統合失調症の発症・進展におけるエクソソームの役割および診断マーカーとしての検討』

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【対象となる方】

2023年4月12日より2028年7月31日までまでの間に、国立精神・神経医療研究センターの「精神疾患データベースの構築・利活用により精神疾患の病態を解明しその障害を支援するための研究」に試料・情報を提供された方

【研究期間】

研究実施許可日(2023年8月9日)より2028年8月8日まで

【研究代表者】

星野歩子 東京大学先端科学技術研究センター 教授

【共同研究機関】

米国 ロックフェラー大学 Henrik Molina 博士

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

研究課題：統合失調症の発症・進展におけるエクソソームの役割および診断マーカーとしての検討

研究期間：研究実施許可日（2023年8月9日）より2028年8月8日まで

研究目的：エクソソームに代表される EV(Extracellular vesicles) とはすべての細胞から放出される直径30-150nm の脂質二重膜から成る細胞外小胞あり、新たな細胞間コミュニケーションツールとして注目されている。エクソソームにはタンパク質、核酸、脂質が含まれその組成は由来する細胞により異なることが知られているが、近年になり悪性腫瘍や神経疾患などの疾患の成立およびバイオマーカーとしての役割も注目されている。本研究では、早期診断や病態解明および新規治療法の開発が課題となっている統合失調症に注目し、統合失調症と診断された症例およびこの疾患がないコントロール（健常者）から採取した血液中のエクソソームを ELISA 法、フローサイトメトリー法、ウェスタンブロット法、HPLC、イメージング、質量分析法、プロテオミクス、リポミクスなどで解析・比較検討し、生理的、病理的意義を明らかにする。また、現在統合失調症で用いられている投薬のレスポnderとノンレスポnderをエクソソーム解析により分けられるかについても検討を行うため、投薬前後のサンプル解析も対象とする。

研究計画・方法:患者および健常者の血漿からエクソソームを超遠心法により単離する。エクソソームのサイズ、数、総合タンパク質量を NanoSight 及び BCA アッセイにより定量する。さらに単離したエクソソームを ELISA 法、フローサイトメトリー法、ウェスタンブロット法、HPLC、イメージング、質量分析法、プロテオミクス、リポミクスなどで解析・比較検討する。また、現在統合失調症で用いられている投薬のレスポnderとノンレスポnderをエクソソーム解析により分けられるかについても検討を同様に行う。

試料・情報等の授受:有り

試料・情報等の授受の方法:血漿サンプルは、国立精神・神経医療研究センターから東京大学に郵送される。東京大学にて単離したエクソソームのサイズ、数、総合タンパク質量は東京大学にて解析される。エクソソーム含有タンパク質によるプロテオーム解析は共同研究機関に郵送し、解析する。情報に関しては、国立精神・神経医療研究センターから東京大学に郵送あるいはメール等で送付される。

管理体制:試料は研究室内に設置された-80℃の冷凍庫で保管。冷凍庫は施錠されないが、設置されている部屋は施錠されている。解析結果は、鍵のかかるロッカー内(情報)、施錠されている部屋にてパスワード管理されているPCにて保管。なお、データについては、既に個人情報や匿名化されたサンプルにおける新規ID付与された状態で取り扱い、厳重に管理する。

【利用又は提供する試料・情報等】

試料:統合失調症の患者、および健常者由来の血漿サンプル

情報等:臨床情報(年齢、性別、診断名、発達歴、精神症状、発症年齢、家族歴、治療歴・治療反応性等)

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
所属 精神疾患病態研究部 氏名 橋本亮太
電話番号 042-341-2711(代表)
e-mail:ryotahashimoto55※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)